
種生物学会 ニュースレター No. 31

THE SOCIETY FOR THE STUDY OF SPECIES BIOLOGY

NEWSLETTER

October, 2005

目 次

第 37 回種生物学シンポジウムの案内	1
第 21 回京都賞記念ワークショップのご案内	4
教員公募のお知らせ	4
会費納入のお願い	5
会員異動	5

第 37 回種生物学シンポジウムのご案内

今年の種生物学シンポジウムは12月16日～18日に八王子セミナーハウスで開催します。第33回以来、久しぶりに八王子に戻ってきました。皆様にはふるってご参加いただきますようお願いいたします。

今回は1日目に「種子の発芽タイミングを決める進化・生態・生理・分子機構」、2日目に「適応進化学の新しい時代を拓く：生態学・遺伝学・ゲノム学の融合」という2つのシンポジウムを企画しています。1日目のシンポジウムは、これまで種生物学シンポジウムでは単独の話題として取り上げてこなかった種子の生物学についてです。種生物学シンポで「種（たね）の生物学」という話題でなんだかややこしいですが、種子休眠・発芽、シードバンクなどについて最近の話題を紹介していただく予定です。2日目は、若手研究者にオーガナイズを依頼して企画したもので、「生態学・遺伝学・ゲノム学の融合」という野心的なタイトルです。21世紀に入り、ゲノム科学が発展してきていますが、生物の適応進化にも大きなインパクトを与え続けています。この分野の最先端の研究者を招いてのシンポジウムです。

プレシンポで講演をしていただく、産総研の深津武馬さんは長年、昆虫とその内部共生細菌について研究を行ってきましたが、中心的な研究材料のアブラムシが、植物に寄生することもあり、植物とアブラムシの研究も行っています。最近ではアブラムシの植物に対する嗜好性が、内部細菌により変化することを明らかにされ、Science誌に発表しています。今回は植物の虫こぶ（ゴール）についての話をさせていただきますので、植物の研究者にも大きな興味を持って聞いていただけたらと思います。

開催期間 2005年12月16日（金）～18日（日）

会場 八王子セミナーハウス

申込み締め切り：11月18日（金）

プログラム

12月16日（金）17:00 開始

プレシンポ「昆虫が操作する植物のかたち（仮題）」深津武馬（産総研）

虫こぶ（ゴール）は、植物の組織でありながら、昆虫が住処あるいは餌として利用するため、外から操作して作るものであります。しかし、同じ植物を利用した虫こぶでもその形態は多様であり、

それぞれの昆虫の種により特徴的なもので、「ドーキンスの延長された表現系」を思い起こさせるものです。本講演では、アブラムシを中心に、昆虫と植物のゴール形成をめぐる相互作用や共進化についての話題を提供していただきます。

12月17日(土) 9:00 開始

シンポジウム1「種子の発芽タイミングを決める進化・生態・生理・分子機構」

オーガナイザー：吉岡俊人・清和研二
(東北大学大学院農学研究科)

種子がいつ発芽するかは、植物の生活史を定める最も基本的な要素の一つである。では、発芽タイミングはどのような進化・生態的「道筋」を通過して決定されたのだろうか。また、その道筋の途中で種子に備わった発芽タイミングを感知する生理・分子的「しくみ」はどのようなものだろうか。

本シンポジウムでは、種子発芽をめぐる様々な現象の中で「発芽タイミング」にテーマを絞り、進化・生態・生理・分子のレベルで行われた野生植物/フィールド研究とモデル植物/ラボ研究を総合して現象の深い理解に迫ってみたい。そして、この場が種子発芽に関心を持つ生態学者と生理学者の研究交流のきっかけになることを期待する。

セッション1【種子発芽の適応戦略】

リードトーク 清和研二「種子発芽の適応戦略」

植物の種子は様々な時期に様々な環境に散布される。しかし、実生の定着やその後の成長に適した所にうまく到達するのは極めて稀である。したがって、親植物にとっては、不適な環境下では休眠し、最適な場所・時期に発芽するメカニズムを個々の種子に持たせることは重要である。

このセッションでは、まず自然環境下における種子の休眠・発芽における様々な環境応答の様式を探っていきたい。さらに長寿命の樹木にとって、種子発芽といった生活史のごく初期のイベントがその後の適応度にも影響するのか、また、発芽タイミングの個体差・種間差が個体群や群集の動態にも影響しうるのかといったことを検証し、樹木の適応戦略や森林の動態を明らかにする上で、いかに種子発芽研究が重要かといったことについても議論したい。

1. 本田裕紀郎

(東京大学大学院農学生命科学研究科)

「発芽におけるギャップシグナルの要求と埋土種子集団の形成メカニズム」

2. 小山浩正 (山形大学大学院農学研究科)

「シラカンバの発芽フェノロジーとその適応的意義 — 相対休眠による発芽季節の分離 —」

3. 清和研二 (東北大学大学院農学研究科)

「落葉広葉樹の個体群・群集動態に及ぼす発芽タイミングの影響」

セッション2【発芽を制御する環境因子に対する種子と実生の応答】

リードトーク 吉岡俊人「発芽の季節性と機会性」

温帯の植物は、季節という毎年安定して繰り返される気温の年変化に応答して種子発芽タイミングを制御するしくみを発達させている。休眠(誘導と覚醒)は発芽サイクルである。また、機会的な生態的空白地形成に伴う環境シグナルを感知して種子発芽を誘導するしくみも多くの種で見られる。ギャップ検出機構である。最近、これら発芽の季節性と機会性に関わる生態的しくみが植物ホルモンを介して制御されていることが明らかになってきた。

このセッションでは、休眠/発芽サイクル(高温による発芽阻害と低温による休眠覚醒)およびギャップ検出機構(光による発芽誘導)へのアブシジン酸とジベレリンの関与について最新の知見が紹介される。また、水田に生育する植物が冠水(嫌気)下で種子発芽し、実生成長できる生理分子機構が述べられる。これは、通常の種子発芽において酸素が必要条件である理由を浮き彫りにするだろう。以上の講演を通じて、発芽タイミング制御の主要環境因子である温度、光、酸素に対する種子の応答について議論を深めたい。

4. 川上直人 (明治大学農学部)

「シロイヌナズナ種子の高温応答とアブシジン酸・ジベレリン」

<昼食>

セッション2【続き】

5. 山口信次郎 (理研植物科学研究センター)

「シロイヌナズナ種子の低温応答 (stratification) とジベレリン」

6. 豊増知伸 (山形大学大学院農学研究科)

「レタス種子の光発芽とジベレリン・アブシジン酸内生量調節機構」

7. 南原英司 (理研植物科学研究センター)

「シロイヌナズナ種子におけるアブシジン酸代謝と感受」

8. 中園幹生 (東京大学大学院農学研究科)

「湿生植物の種子と実生の冠水(嫌気)応答」

9. 総合討論

(要旨は順次、種生物学会ホームページ

<http://sssb.ac.affrc.go.jp>に掲載します)

16:30 総会

17:30 ポスターフラッシュ

18:00 懇親会

20:00 ポスター発表

12月18日(日) 9:00 開始

シンポジウム2「適応進化学の新しい時代を拓く：生態学・遺伝学・ゲノム学の融合」

オーガナイザー：森長真一（東北大）、
土松隆志（東大）

適応進化は、如何にして起こるのか？従来、表現型における適応的意義と遺伝子型変異の創出・維持として、それぞれが異なる立場から答えを求めようとしていた生態学と遺伝学は、近年の分子遺伝学・ゲノム学の発展により今新しい融合を迎えようとしている。しかし、表現型・遺伝子型双方のレベルで自然選択の証拠を探ることができるという素地が整った所で、それらをどう結び付けていくのか、そして結果新しく何が分かるのか、改めて考える必要があるだろう。本シンポジウムでは、生態学と遺伝学・ゲノム学の融合の端緒に立った研究者の方々を演者としてお招きし、適応進化学の新しい時代を展望したい。

- 1) 清水健太郎（ノースカロライナ州立大）
- 2) 工藤 洋（神戸大）
- 3) 遠藤俊徳（北海道大）
- 4) 高橋 亮（理研 GSC）
- 5) 村井耕二（福井県立大）
- 6) 津村義彦（森林総研）

・コメンテーター：田中嘉成（中央大）

（演題・要旨は順次、種生物学会ホームページ
<http://sssb.ac.affrc.go.jp>に掲載します）

■参加申し込み・問い合わせ先

（シンポジウム準備委員会事務局）

〒153-8902

目黒区駒場3-8-1

東京大学・総合文化・広域システム

伊藤研究室内

第37回種生物学シンポジウム準備委員会

e-mail: cmito@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5454-4305

TEL 03-5454-4305

■ポスター発表の募集

今回もポスターセッションを行いますので、ふるってご参加ください。申し込みは参加申し込み時にしてください。締め切りは、参加申し込みと同じく**11月18日(金)**です。正式なタイトル、発表者、所属は12月1日までにシンポジウム準備委員会まで、メールあるいはファックスでお知らせください。

■参加費・宿泊費・懇親会費

参加費 一般 5,000円 学生 3,000円

（11/18以降の入金と当日参加は1,000円 up）

懇親会費（13日夕食）

一般 5,000円 学生 4,000円

宿泊費 13,000円（2泊：16日夕食，17日朝・昼食，18日朝・昼食代含む）

■参加申し込み

参加希望者は**2005年11月18日(金)**までにファックス、あるいは電子メールで申し込んでください。その際、宿泊の希望、ポスター発表の有無、連絡先をしっかりと明記してください。

また、郵便振替にて下記の口座番号・加入者宛に、11月18日(金)までにお支払ください。（振込が11月18日を過ぎると参加費が1000円あがります）

口座番号：00130-9-741563

加入者名：種生物学シンポジウム準備委員会

■その他

・宿泊希望の場合は、事前に代金を払い込んでいただきます。11月18日以前に予約変更の場合は全額精算しますが、それ以後の場合は所定のキャンセル料をいただきます。

・全日程参加できない方は、宿泊および食事の予約料金について準備委員会に直接ご相談ください。

e-mail: cmito@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5454-4305

■八王子セミナーハウスへの交通案内

新宿駅より京王線北野駅下車（特急八王子行きを利用，高幡不動で各駅停車に乗り換え，約40分）。北野駅北口3番南大沢行き，または柚木折返場行きのバスで野猿峠下車し，徒歩5分。北野駅から徒歩の場合は約20分。

車の場合は，中央自動車道八王子インターで出て，八王子バイパス-北野駅-野猿峠へ。八王子インターから約8km。駐車場は40台分あります。

すきまCM

会場は東京郊外の多摩丘陵に位置します。虫食い状に進む住宅地開発と残存する二次林や田園風景の混在が奇妙な違和感を与えてくれるでしょう。付近の林を歩けば，タマノカンアオイに出会えます。季節はよくないのですが，運がよければヤブムグラを見つけることができるかも。

第 21 回 (2005) 京都賞記念ワークショップ 基礎科学部門シンポジウム

「バイオスフェア、複雑適応系として」のご案内

日 時：平成 17 年 11 月 12 日 (土) 午後 1:00 ~ 5:00

場 所：国立京都国際会館

企画・司会：巖佐 庸 [(専門委員会 委員長) 九州大学 大学院理学研究院 教授]

開会挨拶：日高 敏隆 [(審査委員会 委員長) 総合地球環境学研究所 所長]

受賞者講演 サイモン・アッシャー・レヴィン [基礎科学部門 受賞者]

「Learning to Live in a Global Commons: Socioeconomic Challenges for a Sustainable Environment」(地球という共有地での生き方を学ぶ：持続的環境を実現するための社会経済学的課題)

講 演 重定 南奈子 [同志社大学 文化情報学部 教授]

「空間と生態学」

講 演 山村 則男 [京都大学 生態学研究センター 教授]

「種間相互作用の進化と生物群集の安定性」

講 演 竹中 明夫 [国立環境研究所 生物多様性研究プロジェクトグループ 総合研究官]

「森林のパターン：木の視点と森の視点」

講 演 中丸 麻由子 [東京工業大学 大学院社会理工学研究科 専任講師]

「社会科学と生態学」

主 催：財団法人 稲盛財団

後 援：京都府 京都市 NHK

協 賛：個体群生態学会 種生物学会 日本進化学会 日本数理生物学会

日本生態学会 日本動物行動学会

■申込方法：稲盛財団ホームページ上の専用受付ページ、ハガキ又は Fax に住所・氏名・年齢・Tel・職業(学校名)を記入の上、下記まで申し込んでください。折返し入場票を送ります。

〒600-8411 京都市下京区烏丸通り四条下ル水銀屋町 620 番地

(財)稲盛財団 京都賞事務局「ワークショップ B」

Tel. 075-353-7540 Fax. 075-353-7270

URL: <http://www.inamori-f.or.jp/>

■申込締切：11月4日(金) 定員 150 名 (先着順)

■教員公募のお知らせ

首都大学東京生命科学コース(学部)/生命科学専攻(大学院)で教授1名が公募されています。

専門分野は植物系統分類学、または関連分野で、植物系統分類学研究室に所属予定です。現在当研究室には若林三千男教授、菅原敬助教授、加藤英寿助手、藤井紀行助手が所属しています。詳しくは、<http://www.sci.metro-u.ac.jp/biol/plasys.html>を参照してください。本公募は、2006年3月に退職予定の若林教授の後任人事です。専門分野の教育・研究に加え、牧野標本館の運営と将来の

ために中心となって活躍いただくことを期待しています。採用予定は2006年4月1日です。応募締切は2005年10月31日(必着)です。詳しい応募要項については、

http://www.tmu.ac.jp/employ/ul_1.htmを参照してください。不明な点などありましたら、ご遠慮なく下記の問い合わせ先にご連絡ください。

【問い合わせ先】首都大学東京 可知直毅

E-mail:kachi-naoki@c.metro-u.ac.jp

電話 0426-77-2584

生命科学コースのウェブサイト

<http://www.sci.metro-u.ac.jp/biol/>

■庶務関連の報告

- 5月：国立情報学研究所の電子図書館サービスへの参加
学術著作権協会とのILL (Inter-library Loan) の契約内容の一部変更
- 6月：京都賞ワークショップ (11月開催予定) への協賛
- 7月：学術著作権協会との「文献提供者への限定的電子化許諾権の委任」契約

■日本分類学会連合関連の報告

日本分類学会連合加盟学会および団体一覧
(2005年5月24日現在)

1. 種生物学会
2. 地衣類研究会
3. 日本貝類学会
4. 日本魚類学会
5. 日本菌学会
6. 日本蜘蛛学会
7. 日本珪藻学会
8. 日本原生動物学会
9. 日本甲殻類学会
10. 日本甲虫学会
11. 日本古生物学会
12. 日本昆虫学会
13. 日本シダ学会
14. 日本鞘翅学会
15. 日本植物分類学会
16. 日本進化学会
17. 日本生物地理学会
18. 日本蘚苔類学会
19. 日本線虫学会
20. 日本藻類学会
21. 日本ダニ学会
22. 日本地衣学会
23. 日本動物分類学会
24. 日本土壤動物学会
25. 日本爬虫両棲類学会
26. 日本プランクトン学会
27. 日本哺乳類学会

6月14日：ニュースレター7号の発行

(<http://www.bunrui.info/NL/index.html> よりダウンロード可)

会費納入のお願い

種生物学会の年会費は、前納制です。2006年度の会費は一般会員12,000円、学生会員6,000円です。まだ納入されていない方は、お急ぎお振り込みいただきますようお願い申し上げます。2006年度までの未納金がある会員の方には、宛名ラベルの右下にも未納金額が数字で示してあります。

会費納付先 郵便振替番号 00880-6-148174

口座名義 種生物学会

または

UFJ銀行知立(ちりゅう)支店

口座番号 普通 3928894

口座名義 種生物学会

会 員 異 動

住所変更・会費・入退会に関する問い合わせ

会計幹事 渡邊幹男

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1
愛知教育大学生物

FAX 0566-26-2310, TEL 0566-26-2366

sasanabe@aecc.aichi-edu.ac.jp

種生物学会ニュースレター 31

発行 種生物学会

URL <http://sssb.ac.affrc.go.jp/>

編集 藤井伸二 (庶務幹事)

〒444-3505 岡崎市本宿町上三本松6-2
人間環境大学・環境保全

Tel. (研究室) : 090-5112-0491

Fax (大学代表) : 0564-48-7814

発行日 October 2005

印刷 イヅミ印刷所

住所変更・会費・入退会に関するお問い合わせは、
会計幹事 (上記) までお願いします。

第 37 回種生物学シンポジウム参加申込み用紙

申込先 ファックス：03-5454-4305 申込み締め切り 2005 年 11 月 18 日 (金)
電子メール：cmito@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

<必要事項と該当する□にチェックのご記入をお願いします>

ふりがな

氏 名

一般 学生

宿泊希望者のみご記入ください 男性 女性

所 属

住 所 〒

電話番号

電子メール

上記連絡先は 所属機関 自宅

懇親会 参加する 参加しない

宿 泊 2泊 宿泊しない

ポスター発表 発表する 発表しない

ポスター発表のタイトル

発表者（所属）

参加費 一般 5,000 円 学生 3,000 円

※ 11 / 18 日以降の入金と当日参加は 1,000 円アップになりますのでご注意ください。

懇親会費 (13 日夕食費) 一般 5,000 円 学生 4,000 円

宿泊費 13,000 円 (2泊：16 日夕食, 17 日朝・昼食, 18 日朝・昼食代含む)

振込先 口座番号：00130-9-741563

加入者名：種生物学シンポジウム準備委員会

シンポジウム・講演会のご案内

■第37回種生物学シンポジウム

(※本誌1～3p参照)

日時：2005年12月16日(金)～18日(日)

会場：八王子セミナーハウス

申込締切：11月18日(金)

12月16日(金)

13:00 編集委員会・幹事会

17:00 プレシンポ「昆虫が操作する植物のかたち」

12月17日(土) 9:00 開始

シンポジウム1「種子の発芽タイミングを

決める進化・生態・生理・分子機構」

総会、ポスター発表、懇親会

12月18日(日) 9:00 開始

シンポジウム2「適応進化の新しい時代を拓く：

生態学・遺伝学・ゲノム学の融合」

■第21回(2005)京都賞記念ワークショップ

基礎科学部門シンポジウム

「バイオスフェア、複雑適応系として」

日時：平成17年11月12日(土) 13:00～

場所：国立京都国際会館

申込締切：11月4日(金)

(※本誌4p & 同封チラシ参照)

■自然史学会連合講演会 科学への入口“自然史” —第一線の専門家が語る10のとびら—

日時：2005年11月20日(日) 10:30～16:30

会場：大阪市立自然史博物館

交通機関：地下鉄御堂筋線長居駅より徒歩8分

10:30 開会・連合代表挨拶(鎮西清高)

10:40～11:50 講演第1部

1. 「クモには意外と敵がいる？クモヒメバチの寄生習性」

松本吏樹郎(大阪市自然史博)

2. 「干潟のカニが見せる巧妙な社会行動」

和田恵次(奈良女子大)

3. 「絶海の孤島に生き残った小さなフクロウ、 ダイトウコノハズクの生態」

高木昌興(大阪市大)

12:50～14:10 講演第2部

1. 「花の模様は虫を導くためにあるって、本当？」

岡本素治(大阪市自然史博)

香取郁夫(近畿大)

2. 「いわゆる「腐生植物」はどのように生活しているのか？」

大和政英(環境総合テクノス・生物環境研究所)

3. 「アンモナイトの遺骸は浮くか沈むか？

—化石化の原点を探る—

前田晴良(京大理学)

14:10～15:30 講演第3部

1. 「ポリネシア人は巨人である」

片山一道(京大理学)

2. 「外来生物をめぐる誤解と葛藤：理解と対策を妨げるもの」

中井克樹(滋賀県立琵琶湖博)

3. 「今世紀、大阪平野は激しく揺れるか？」

寒川 旭(産業技術総合研究所)

15:30～

総括講演「ぼくの考える自然史研究の意義」

日高敏隆(総合地球環境研)

主催：自然史学会連合

共催：大阪市立自然史博物館

西日本自然史博物館ネットワーク

■日本分類学会連合公開シンポジウム

日時：2006年1月7日(土)～8日(日)

会場(詳細はまだアナウンスされていないが、
科博新宿分館での開催が通例)

1月7日(土)「ミドリムシは動物？それとも植物？ ：原生物の不思議な世界」

1月8日(日)日本におけるドイツ年記念

シンポジウム「日独学術交流史

—相模湾動物相調査の歴史と成果」

※詳しい案内は、連合のホームページ

(<http://www.bunrui.info/>)に掲載される予定です
ので、そちらをご覧ください。

すきまCM

平成17年度 日本植物分類学会講演会

日時：2006年1月14日(土) 10:10～16:40

場所：大阪市立大学文化交流センター
(大阪駅前第2ビル内)

1. 絶滅危惧植物の落とし穴：水田と草地の植物を例に 藤井伸二(人間環境大学・環境保全)

2. タネツケバナの謎に迫る

工藤 洋(神戸大学・理学部・生物)

3. 未知の葉上器官「ダニ室」

西田佐知子(名古屋大学・博物館)

4. カワゴケソウ科の分類と進化

加藤雅啓(国立科学博物館・植物研究部)

5. スライド講演：ミャンマーの植物をたずねて

邑田 仁(東京大学・大学院理学系研究科・附属植物園)